

# 福岡市長賞

## 「水と空気と税金と」

福岡市立香椎第三中学校 3年

中尾 光彩

私は分譲マンションに住んでいますが、毎年、総会が開かれます。一年間にこれだけの管理費を集めて、敷地の電灯や樹木の消毒、建物の修繕など、どれくらいのお金が使われたかを皆で話し合います。

階段の電灯が点滅すると、管理人さんが新しいものに取り換えます。スズメバチが発見されると、消毒屋さんがやってきます。寒い冬に駐車場が凍結すると、石灰を撒いてくれます。

こういう仕事は誰かがしてくれないと皆が困ってしまいます。皆の財産を運営していくのが管理費なのだと聞きました。また、お金を納めていない人がいると役員の方が、納めてくださいと、お願いに回るのだそうです。どうして、そうするのかというと、払える人だけで管理費を負担するのでは、公平にならないためです。こうした仕組みは税金ととてもよく似ていると思います。

マンションの管理費を社会全体で見たらどうなるのでしょうか。マンションの敷地を一步離れたところ、毎日の通学に使っている道路、四季の花々できれいな隣の公園、橋の下を流れる川、目に見える皆の財産は、誰が運営してくれているのでしょうか。

この課題作文をきっかけに、少し想像をめぐらせました。大雨で香椎川のブロックが壊れたら補修してもらってますし、道路の歩道の凸凹をなおしてくれます。香椎の歩道橋にはエレベーターがあります。また、動かすためには電気代がかかっているはずですが。水や空気のように税金の恩恵を受けていながら、普段まるでそれを感じることはありません。もし、道路や歩道橋が誰かの持ちものだったとしたら、どうなるのでしょうか。道路を通るたびに、エレベーターに乗るたびに、お金をくださいなんて言われたら困ります。皆の道がない社会なんて考えられえません。

けっして警察や消防だけではなく、本当に生活の隅々にまで浸透しているサービスに対して、やはり社会の会費が必要なんだと思います。

また、私たちの教育のお金も小学校から中学校を卒業するまでの九年間で、教科書や学校の運営などで生徒一人に約八百万円の税金がかかっていることが分かりました。  
(平成二十一年国税庁ホームページより)

さらに、税金は、直接還ってくるものだけでなく、皆の感動を支える裏方にもなっています。今年の夏、日本中を沸かせたロンドン五輪でしたが、選手たちのさまざまなサポートにも皆の税金が活かされているとわかって、とてもうれしく思います。

こうして考えると、社会の会費に対してどうして「とられる」なんて発想ができるのでしょうか。税金の恩恵は水や空気ではありません。自分のため、皆のための負担を堂々と果たしていく。そんな社会づくりの一員として成長したいと思います。